



南種子町の山田豊さんは就農3年目のスナップエンドウ農家です。地元の種子島にUターンして農業を始めました。1年目から地域で指折りの収量を記録するも、翌年は病害で収穫を断念するという苦楽両面を味わいました。失敗を糧に3年目は生産体制を整え、1年目を超える増収に意欲を燃やしています。令和2年度は1年目を超える30<sup>㍓</sup>を作付し、収量も1・8<sup>トン</sup>を見込んでいます。

## ゼロからのスタート

### 地元農家から直接指導

山田さんは大学卒業後、鹿児島市内の企業に就職しました。が、生まれ育った種子島の農業に興味を抱き、平成27年に就農を決断しました。

しかし、農業をどのようにして始めれば良いか分からず、JAに相談したところ、青年給付金制度の活用や農業経営研修に繋がりました。

南種子町園芸振興会会長の浦口啓一郎さんの下で2年間学び、平成29年に就農することができました。

山田さんの実家は農家ではなく、自分の農地がありませんでしたが、農地を借りることで対

応し、少ない面積でも収益が見込める高収益作物のスナップエンドウを作付け品目を選ぶこととしました。

## ゴマ症の発症

### 病気の怖さを実感

1年目は1・5<sup>トン</sup>の収穫に成功した山田さんは、念入りに管理作業をした結果、町内で上位に入るほどの収量となりました。

しかし、2年目は、農薬散布の時期に体調を崩し作業を中断。ゴマ症が発症しました。

4月頃まで予定していた収穫を1月末で諦める事態となりました。

## 失敗を基に

### 管理作業に取り組む

失敗を経験し「農業では、事が起きる前の予防が必要」と考え、天候を先読みし余裕ある作業に取り組むようになりました。

従業員を2人雇用し、作業に目が行き届くよう、管理体制も整えました。

山田さんは、「まずは、経営を安定させることが第一目標。規模拡大を目指しながら、農業振興や地域の活性化に貢献していきたい」と話しました。

